

【研究発表Ⅲ-⑬ 医療情報・教育・管理】

マンモグラフィー施設認定への道 (ソフトコピーver.)

深谷赤十字病院 放射線診断科部

○飛田 真希 (とびた まき)、浅見 有希、坂本 里紗

高柳 幸恵、青木 薫子、中山 進

【目的】

平成 29 年 1 月の機器更新に際しデジタルマンモグラフィ装置「Senographe Pristina」(GE 社製) が導入された。導入後 1 年以内のソフトコピー認定取得を目指し取り組んだので、その過程を報告する。

【方法】

平成 29 年 1 月より提出候補になる画像 (高濃度・不均一高濃度・乳腺散在・脂肪性) の収集を開始した。10 月上旬に提出画像を選定し、必要書類と共に日本乳がん検診精度管理中央機構へ申請した。

【結果】

高濃度・脂肪性の画像は、対象画像自体が少なく選定が困難であった。特に高濃度乳腺は基準を満たす画像が無く、一度提出したものの再提出となった。その他、受入試験でのモニター輝度に不備があり再提出となった。認定試験結果は B 評価であった。当院の平均乳腺線量は、認定施設における 2001 年 1 月から 2014 年 6 月までの平均乳腺線量と比較し低値であり、乳腺内外コントラスト、鮮鋭度、粒状性の評価は不良であった。

【考察】

高濃度乳腺のポジショニング不良が多く、候補画像にできないものが多数あった。今後は個々の技術を高めるためポジショニング講習会への参加、技師間での情報交換等おこない、全体的な技術力の底上げを図る。また、乳腺内外コントラスト、鮮鋭度、粒状度を改善するため撮影条件の再検討を行う。